

2026年8月米CPI (消費者物価指数)

<結果概要>

・米8月CPI(総合)は、前年同月比+3.4%(7月:+3.4%)と伸びは横ばいになった一方、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは、同+2.4%(7月:+2.5%)と伸びが鈍化した。前月比では、総合は+0.4%(7月:+0.1%)、コアは同+0.3%(7月:+0.2%)とともに上昇した。

・CPI(総合、前月比)の寄与度別内訳では、中東情勢の緊迫化を背景とした原油高を受け、ガソリン価格が上昇したことから、エネルギーは+0.154%と前月の▲0.110%から上昇に転じた。コアサービスは通信費の値上げを背景に上昇した。コア財はPC、周辺機器は上昇したものの、レクリエーション用品が下落したことで、前月の+0.037%から伸びは鈍化した。

(単位: %)

	8月分	市場予想(8月分)	7月分
CPI(前月比)	0.4	0.4	0.1
CPI(前年同月比)	3.4	3.4	3.4
コアCPI(前月比)	0.3	0.2	0.2
コアCPI(前年同月比)	2.4	2.4	2.5

<寄与度別内訳(前月比)>

(単位: %)

主な項目	8月分	7月分
全項目	0.396	0.074
コアサービス	0.197	0.137
(うち住居費)	0.093	0.049
コア財	0.020	0.037
食品	0.017	0.011
エネルギー	0.154	▲ 0.110

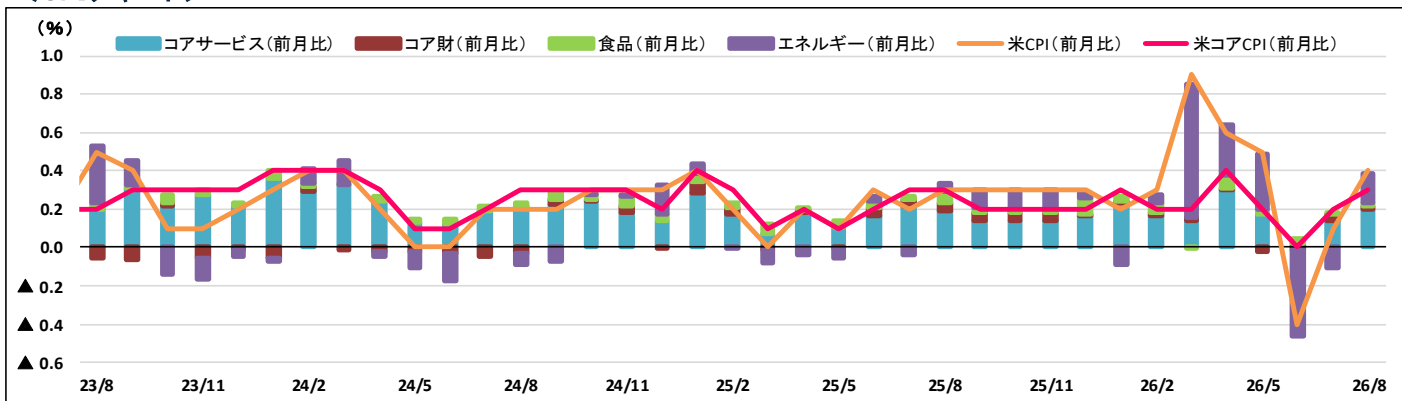
CPI(消費者物価指数)とは

・米国の消費者物価指数は、家計が購入する財・サービス価格の平均的な変化を測定する月次の物価指標であり、調査は衣類や食品等をはじめとして200以上のカテゴリーで実施される。

・全体の物価の変化率を示す「総合」と変動の大きいエネルギー関連指数や食料品目を除いた基調的なインフレの動向を示す「コア」に分けられる。

・FRB(米連邦準備制度理事会)は、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標に掲げていることから、金融政策の動向を見極めるうえで米CPIは非常に注目度が高い。

<CPIチャート>



出所: 米労働統計局、Bloombergより足利銀行資金証券部作成

<今回のポイント>

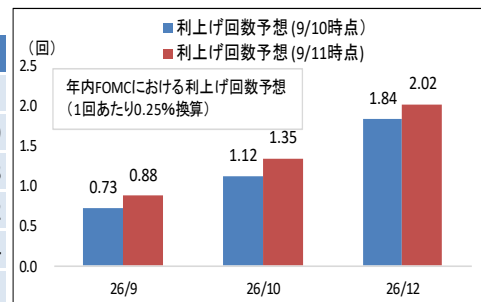
・先月末のジャクソンホール会議において、ウォーシュFRB議長は、インフレ対応を強める姿勢を示しており、9月FOMC会合前に公表されるCPIが注目されていた。議長はインフレ変化のスピードに注目するとしており、今月は前月比の数字に関心が集まっていた。

・今回のCPIでは総合(前月比)は伸びが加速し、コアも市場予想を上回ったことで根強いインフレ圧力が確認された。

・CPIの結果を受けて利上げ観測は高まった。FF金利先物市場における年内の利上げ回数予想はCPI公表前の1.84回(1回あたり0.25%換算)から公表後は2.02回へ増加した。

<市場動向>

	9月11日	9月10日	前日比
ドル/円相場(円)	153.61	154.42	▲ 0.81
ダウ平均株価(ドル)	52,573.29	52,064.10	509.19
S&P500(ポイント)	7,656.98	7,591.70	65.28
NASDAQ(ポイント)	26,333.04	26,081.72	251.32
米2年国債利回り(%)	4.63	4.59	0.04
米10年国債利回り(%)	4.97	4.96	0.01



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。